

幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐ
カリキュラム・マネジメント

■ 研究指定・委嘱地域 (校等)

桂川町教育委員会 (桂川中・桂川小・桂川東小・桂川幼)

研究の目標

幼児期から児童期、青年期への発達や学びの連続性を確保するための教育課程の編成や、幼児教育と小・中学校教育の連携を通して、円滑な接続を図る推進体制の在り方を究明する。

研究の内容

- 視点1: 主体的な学びをつなぐ幼・保・小・中のカリキュラム・マネジメント
- 視点2: 各中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備

研究の実際

■ 視点1

- 幼児教育、小・中学校教育の円滑な接続のための教育活動の創造
- 幼児が小学校に、小学生が中学校にあこがれを抱く教育活動の創造

■ 視点2

- 幼・保・小・中の相互理解を担う幼児教育アドバイザーの役割
- 幼児からの一貫した教育を推進する教育委員会などの支援
- 連携推進委員会の設置による指針状況の分析・検証

★ 視点1の実践

ふるさとを愛し、
未来を担う子ども

- 【自己表現力】郷土を誇りに思い、高い志と理想をもって、自らの夢の実現に向けて学び続ける子ども
- 【社会参画力】地域の人々と支え合い、協働しながら桂川町の未来を切り拓く資質と能力を身につけた子ども

よりよい生活をめざす「自己表現力」と社会での役割を果たす「社会参画力」の育成を目指しています。

各部会でめざす子ども像と育てたい資質能力を構築・共有したことや「ふるさとを愛し、未来を担う子どもの育成」カリキュラム(以下ふるさと学習一覧表と表記)、アプローチ・スタートカリキュラムを作成したことで、校種を越えたつながりが明確になっています。

幼・小の教職員が連携して作成した、アプローチ・スタートカリキュラムをもとに、学習内容の改善を図っています。

各部会でめざす子ども像と育てたい資質・能力が具体化するように協議を重ねたことで、12年間を通して、一貫性のある系統的な内容となっています。

「ふるさと『けいせん』プロジェクトの系統(ねらい等)」を踏まえ、ふるさと学習一覧表を作成したことで、園や各学校の活動のつながりや活用する「人・もの・こと」が明らかになり、内容の充実につながっています。

部会	学年等	段階	ねらい等
第1	幼稚園 小1・小2	気づく 知る	家族や学校、地域のひと・もの・こととの具体的体験を通して、親しみや愛着、感謝の念をもち、自分への理解を深める
第2	小3・小4	知る 分かる	地域の生活を支えている人々の働き、思いや願いを調べる活動を通して、地域社会の仕組みを理解し、誇りや愛情をもつ
第3	小5・小6 中1	分かる 働きかける	地域の環境や伝統・文化を保護、継承している人々の働き、思いや願いを追究し、地域の一員としての関わり方を考える
第4	中2・中3	働きかける 貢献する	地域の一員として、自分と社会との関わりを考え、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考える

【「ふるさと『けいせん』プロジェクト」の系統(ねらい等)】

めざす子ども像	各学年において重点化する生活科単元、総合的な学習の時間の探究課題		活用する人・もの・こと	
	自己表現力	社会参画力		
幼稚園 小1 小2	園内外の環境に親しみ、生活に取り入れることを楽しもうとする子ども	桂川幼稚園 ○ (自然との関わり・生命尊重) いもほり たのしかったね ○ (社会生活との関わり) ようこそ ひまわりショップへ ○ (健康な心と体) きゅうしょく たのしみだね	桂川幼稚園 ・東小1年生 ・地域の方・イーバイ桂川 ・桂小5年生	
		桂川小学校 ○ (学校と生活) わくわくどきどきしょうがっこう ○ (動物の飼育・栽培) きせつとなかよし あき ○ (自分の成長) ようこそ小学校へ	桂川東小学校 ・嘉穂総合高校・桂川幼稚園 ・地域の人(むかし遊び) ・アンビシャス広場・おはよう会	
	家族や学校、地域に親しみ意欲や自信を持って学ぼうとする子ども	○ (地域と生活) まちが大好きたんけんたい ○ (動物の飼育・栽培) めざせやさいぬいじん ○ (地域と生活) えがおのひみつたんけんたい	○ (学校と生活) わくわくどきどきしょうがっこう ○ (動物の飼育・栽培) きれいにさいてね わたしのはな ○ (自分の成長) かぞくにここに大きくなれ	・町立図書館・郵便局 ・地域のお店・嘉穂総合高校 ・組木細工
	家族や、学校、地域に支えられながら成長している自分自身に気付き、自分の仕事に意欲的に取り組もうとする子ども	○ (地域と生活) えがおのひみつたんけんたい	○ (学校と生活) わくわくどきどきしょうがっこう ○ (動物の飼育・栽培) めざせやさいぬいじん ○ (自分の成長) かぞくにここに大きくなれ	

【ふるさと学習一覧表の一部】



【第1学年生活科「きせつとなかよし あき」】

★ 視点2の実践

連携推進委員会のリーダーシップのもと、幼・小・中連携推進マネジメントロードマップを作成し、推進委員会の取組が具体化されたことで、4プロジェクト部会に所属する全教員の協働的な意識が高まっています。

連携推進委員会

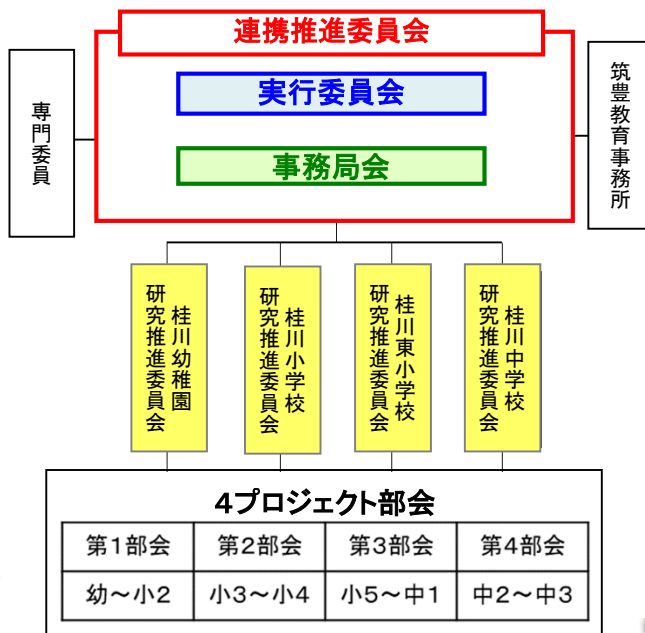
① 実行委員会(年3回程度)

- ・本事業の推進に関わる事項に関する審議決定(教育長、校長、園長、教育委員会課長等、PTA連絡協議会会長、地域学校協働活動推進員)

② 事務局

- ・計画案を作成検討、資料提供
- ・合同研修会・部会研修会の定期的な企画・運営
- ・研究内容の分析検討、資料作成(教育委員会指導主幹等、教頭、園教務主任、主幹教諭、園教諭、教育事務所指導主事)

【推進委員会の役割と構成員】



【組織図】

段階	連携推進委員会	段階	校内研究推進委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新体制での研究推進体制の確立 ・研究内容と方法の共有 	P	<ul style="list-style-type: none"> ・新体制での研究推進体制の確立 ・研究内容と方法の共通理解 ・一学期実践に向けた計画
5月	<ul style="list-style-type: none"> D 各部会代表授業者による授業実践 C 振り返りシート A プロジェクト部会を中心に授業改善案 		<ul style="list-style-type: none"> D 「ふるさと学習一覧表」に沿って授業実践 C 振り返りシート A 校内部会を中心に授業改善案
6月		D	

【幼・小・中連携推進マネジメントロードマップの一部】



【第1部会の様子】

幼・小・中連携推進マネジメントロードマップを作成したことで、2つの推進委員会における年間の取組が明確となり、スムーズな会の運営につながっています。

幼児教育ADを中心に幼・小の教職員が公開授業や接続期の取組等の協議を重ね、アプローチ・スタートカリキュラムを作成することで、幼・小のつながりが強まっています。

既存の低・中・高学年部会を生かした4プロジェクト部会とすることで、全教員の共通理解と協力体制の構築を図っています。